令和６年度大学ポートレートステークホルダー・ボード　主な意見
（令和６年１２月４日開催）

１．高校での利用について

○　大学ポートレートを進路指導教員が知っているかは疑問である。知っていて使ったとしても、高校生向けに特化したツールではないことによる（用語の難しさ等）敷居の高さがある。

○　今後（教学マネジメント指針への対応等によって）新たに情報が追加され、大学が自身のウェブサイト等で公表しづらいような情報も含めて公表及び比較検討されるようになれば、より信頼される情報として教員にとって有効なツールになる。

○　大学を幅広く検索して絞り込んでいくのは自身の目的が定まっていない生徒には難しい。時間の限られる進路指導で高校生にそれを求めるのはハードルが高い。並べれば視界に入るパンフレット等と異なり、インターネットでは入口がトップページに限られるが、やりたいことが決まっていない生徒は検索を始めることもできない。紙と PC の両方の良さを生かしながら進路指導が展開されるとよい。

○　情報をどう選択するかを自身に委ねられてしまうと選びにくい生徒もいるだろう。そこを繋げる役割を高校教員が担っていると再認識した。

○　高校生は偏差値や所在地、受験日程で大学を選んでいくが、教員は学生数や教員数、実際の教育内容等、生徒とは異なる視点で情報を収集しアドバイスをする。情報が増えると見づらくなる面もあるが、経済的または個別の事情に対応する学生支援の情報があると助かる。教員に向けて特化した形で PR するとよいのではないか。

○　利用されるシーンを高校教員や高校生に向けて紹介していくことが必要だ。

○　進路指導の現場の大変さを考えると、企業のキャリア担当者が学校とコラボし、高校生に対してキャリアコンサルティングを行う、もしくは大学ポートレートのようなサービスを一緒に使ってみるといったことも検討していくとよいかもしれない。

２．トップページの改善について

○　高校生向けの使い方の入口がないという点で見づらい。民間のサービスと比べて高校生向けにはなっていないと感じる。

○　高校生にとって沢山の情報から絞り込むのは非常に難しい。そのため進路指導では検索の仕方といった表面的なものではなく、自分の進路の考え方や情報の取り方を指導していかなければならない。大学ポートレートのトップページに高校生向けの内容を用意するなど検討していく必要がある。

○　（保護者としては）子どもから「この大学がいい」と言われて初めてその大学のウェブサイト等を見ることも多い。そのため、まずは高校生にとって入りやすく分かりやすいものにす

ることを重視してほしい。

○　大学ポートレートに情報を見に来る相手または見せたい相手が複数いるため、閲覧者に応じた入口を整備できるとよい。高校生や保護者それぞれに向けて大学を見る観点などを提案するような段階にあるのではないか。

○　進路指導担当も毎年同じ教員とは限らないため、トップページが見づらい点については工夫がされるとよい。

3．一覧機能について

○　大学ポートレートでも比較検討ができるようになり、長く要望していたものが実現しつつあるように思う。

○　大学のディプロマポリシーは崇高かつ曖昧なイメージもあるが、各大学の歴史や文化が滲み出ているものが多い。（行きたい大学の３ポリシーを比較するシステムができれば）フィーリングという意味では役立つ情報かと思う。

○　大学の３ポリシーを比較検討できるようなシステムになるとよい。横並びで比較すると大学の人材育成の方向性等が分かることがあり、比較されることによって大学のポリシー自体も磨かれていく。

4．公表項目について

○　DEI ポリシーを大学ウェブサイトで公開し、幅広い学生を受け入れることを国内外へ打ち出す大学が増えている。DEI ポリシーを公開しているかについての項目を（大学ポートレートに）設けてもよいのではと思う。ただし、やみくもに項目を増やすのではなく、マイノリティ学生への支援という視点から既存の各項目にどのような情報が入っているのかを確認し、生徒に届くように公表することで、生徒と大学との距離感も縮まると思われる。国際的水準から考えても日本はそうした取組を積極的にすべきだ。

5．全体の方向性について

○　情報公表について現場の負担を軽減していくことは重要だが、一方で高等教育が今後縮小していくことを考えると国の投資を得るためにも情報をさらに公表する必要がある。その際、大学側の負担と言う観点でも、複数の場所に情報を入れるよりもデータを１か所に集中させ、それをマルチに活用する仕組み作りを考えていくことが必要である。

○　公表項目を増やすという話もあったが、様々な対象者に向けて情報をどのように提示していくのか、特に入口に分かりやすい説明を加えてナビゲートする必要性については各委員の意見に共通していた。また、高校の進路指導では限られた時間の中で工夫し対応されていることや、各大学が情報公表に非常に苦労されていることもよく分かった。

以　上